新大阪直通運転で観光活性化へ

記念インタビュー

熊本は九州観光のハブをめざす
大阪から直通で2時間59分

蒲島　郁夫
熊本県知事

3月12日に博多と熊本の新八代間が開通し九州新幹線は全線開業となる。開業に合わせ、新大阪駅からは、山陽・九州新幹線「みずほ」「さくら」の直通運転も開始される。大幅な移動時間短縮効果で、開業後はヒト、モノの流れは活発化し、とりわけ観光産業における高い経済的効果には期待が寄せられている。中でも九州の中心に位置し豊富な観光資源を有する熊本県と、九州新幹線の終着駅で同じく豊富な観光資源を有する鹿児島県は、全線開業で最も注目を集めるエリア。そこで両県知事に、全線開業に向けての両県の取り組みを聞いた。（聞き手＝江口恒明本社社長）

――3月12日に九州新幹線全線開業及び山陽・九州新幹線の直通運転が開始される。熊本県はこの機会をどう捉え、取り組んでいるか。

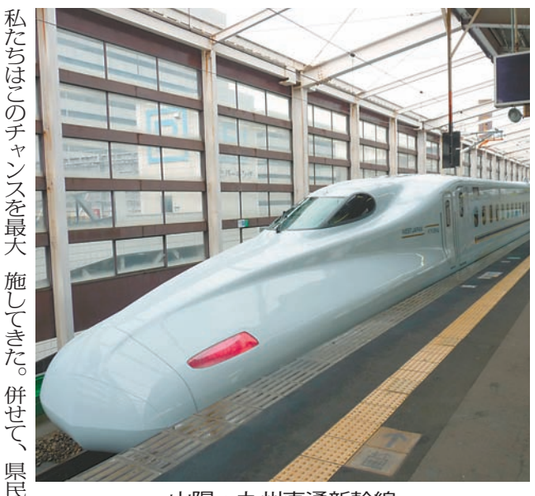
蒲島知事　九州新幹線全線開業及び山陽・九州新幹線の直通運転開始では、熊本は九州観光のハブを目指す。

熊本は九州の中央に位置しており、アクセスも充実している。新幹線開業後は熊本からスタートする九州の旅をアピールしたい。

旅行や観光の素材としては、熊本の多彩な豊かさを訴えている。まず熊本の雄大な自然はぜひ体験してほしい。阿蘇の火口や草原の風景、天草のイルカの群れなど、大きな感動が待っている。また知事としても誇りに思うのは、熊本は水が豊富で美味しいこと。熊本都市圏100万人の水道水は地下からのミネラルウォーターだ。素材の多彩さといえば、熊本は、優れた人材や古来より受け継がれてきた歴史、文化がある。農林水産物と食文化がある。また伝統工芸でも、高い技術に裏付けられた肥後象がんや山鹿灯籠、天草陶磁器などもある。

――観光振興についてはどうか。

蒲島知事　九州新幹線全線開業により、関西、中国地域から本県への移動時間が大幅に短縮され、ダイナミックな人の流れが生み出される。



山陽・九州直通新幹線

私たちはこのチャンスを最大限に生かし、本県の可能性を最大限に引き出していかねばならない。これまで磨き上げた観光資源を含む県内各地の観光情報の発信を行うとともに、大阪をはじめ新幹線沿線の大都市を中心に活発な観光宣伝活動を展開してきた。特に、全線開業を控えた昨年10月～今年3月にかけては、JR西日本とタイアップした「くまもとサプライズザンス観光キャンペーン」や、熊本県宣伝部長スザンヌさん、くまもとサプライズキャラクター「くまモン」を使ったプロモーション活動を積極的に実施してきた。併せて、県民総参加のおもてなし運動の展開による受入体制の整備や、熊本での滞在時間を伸ばすための回遊性のあるルートづくり、隣県と連携した取組みの展開など、熊本の魅力・財産・英知を結集し、全線開業効果の最大化を図っていく。

1月24日～30日には吉本興業と連携し、「よしもとウィークINなんばグランド花月」を実施。1月29日にはよしもと新喜劇で、宣伝部長のスザンヌさんと一緒に出演し、大阪ならではのプロモーションが実施できた。

――2次アクセスはどうか。

蒲島知事　個人・小グループ等の旅行商品造成を促進するため、09年度に、九州産業交通HD、観光販売システムズと連携して、全国で初めて「県内路線バス網を活用した旅行商品造成システム」を構築した。現在、15路線のバス網を整備。県内のみならず大分、長崎など隣県に足を伸ばすルートもある。

また、3月から「熊本発レンタカー特別キャンペーン」を実施。熊本で借りると九州内の乗捨料金が無料になり、九州観光の利便性が大きく向上する。

――県内、地元の温泉地、旅館ホテルの受入態勢は。

蒲島知事　〝ようこそ〟くまもと観光立県県民会議との連携のもと、「県民総参加によるおもてなし運動」を展開。09年度から企業や学校、NPO法人、市民グループ、地域づくり団体、観光関連団体等が主体的に実施する「おもてなし」の取組みを募集、採択された団体に対して助成を行い、県下各地でおもてなしの輪が広がっている。

さらに県内各地で活動している女将の会の連携を強化し、県民総参加のおもてなし運動を牽引する目的で、09年2月に「熊本県旅連　女将の会」が発足。県内各地での「おもてなし清掃活動」や、東京「明治座」でのPR活動など本県のプロモーションにも御尽力いただき、内外で活発に活動いただいている。

――新幹線沿線の景観整備はどうか。

蒲島知事　SL人吉の沿線では、SLに向かって周辺の住民の皆さんが手を振ってくれるということで、県民の素朴で自然なおもてなしがとても評価されている。

同じような気持ちで、新幹線開業に向け「イエロープロジェクト」という植栽活動を行ってきた。新幹線沿線に菜の花やレンゲが一面に広がる景色で皆さんをお迎えしたい。

ゆるっと博は、世界最大級のカルデラが舞台。阿蘇の大フィールドを会場にして自然や農村、商店街、温泉街をパビリオンに見立てる。海道博は、島独特の歴史と文化、暮らしを守り受け継いできた天草の魅力（＝海道）を集め、天草ならではの体験やグルメを満喫してもらう。

さらに「ねんりんピック2011（ふれ愛）熊本」が、10月15日から18日まで行われる。

――インバウンドについてはどうか。

蒲島知事　昨年11月にソウルから釜山まで全線開通した韓国高速鉄道とタイアップを進めている。昨年10月からのタイアップツアー第1弾では、約千人の参加を得た。九州新幹線全線開業後を見据えた、ツアー造成も協議中。福岡空港からの誘客についても、新幹線を加え、海外の旅行会社等とタイアップして商品造成につなげたい。

新大阪までの直行便の運行がはじまると、大阪・京都・広島からの外国人観光客も誘致ターゲットに入ってくる。

――九州の中におけるこれからの熊本は。

蒲島知事　熊本市は来年4月の政令指定都市移行を目指している。実現すれば福岡、北九州について九州で3番目。将来、九州が一つになる時を見据えて州都を目指したい。そのために、「品格あるくまもと」づくりに取り組んでいく。

――これまでのキャンペーンの成果は。

蒲島知事　07年度から新幹線沿線地域の関西・中国・福岡都市圏に対して、重点的に旬の観光情報をPRする新幹線開業準備キャンペーンを実施してきた。09年10月から3月末までの半年間は、JR九州と全面的にタイアップした観光キャンペーン「くまもと最高ザンス観光キャンペーン」を行った。この期間中、鉄道を利用した旅行商品利用者数は約4万4千人で、対前年比166・2％となった。

――JR西日本とのタイアップキャンペーンは特に注目を集めた。

蒲島知事　昨年10月から、九州で初めてJR西日本と全面的にタイアップした「くまもとサプライズザンス観光キャンペーン」を大規模に展開。北陸から近畿・中国・九州北部の地域で、これまでにない規模で本県の魅力を発信している。JR西日本の発表では、10月～12月末現在の熊本への送客実績が前年比258・1％と好調だ。

――来年度のキャンペーンの予定は。

蒲島知事　熊本・宮崎・鹿児島デスティネーションキャンペーンを10月から12月までJR6社と実施。キャンペーンのオープニングイベントは熊本で開催する予定。

――旅行会社との連携は。

蒲島知事　JTB、近畿日本ツーリスト、日本旅行など大手旅行会社ともタイアップし、九州新幹線を利用した熊本への旅行商品の企画・造成、販売までをトータルで行うキャンペーンを実施する予定。

――広域連携はどう考えているか。

蒲島知事　熊本が九州観光のハブを目指すうえで他県との連携は重要。首都圏や海外など、距離が遠くなるほど九州全体でのプロモーションが必要なので、今後も九州観光推進機構と連携し、九州全体での取組に力を入れたい。

南九州3県では、約14年前に南九州広域観光ルート連絡協議会を設立し、さまざまなプロモーションを実施してきた。食のPRや教育旅行について共同事業を行っている。

九州横断3県では、08年に長崎県、大分県と「九州横断長崎・熊本・大分広域観光振興協議会」を設立。昨年は大河ドラマ「龍馬伝」を活用し、「坂本龍馬と勝海舟が通った九州横断の旅」を首都圏や関西地区でPRした。今年2月からは、トヨタレンタリースとタイアップした「九州横断エコドライブの旅」キャンペーンを3県で実施している。

さらに大分県と連携した「阿蘇くじゅう観光圏」、長崎県と連携した「雲仙天草観光圏」は国の観光圏に認定されている。

――開業に合わせて開催される大型イベントは。

蒲島知事　阿蘇ゆるっと博が開業に合わせて、3月12日から、天草海道博は3月1日から、いずれも来年の3月31日まで開催される。

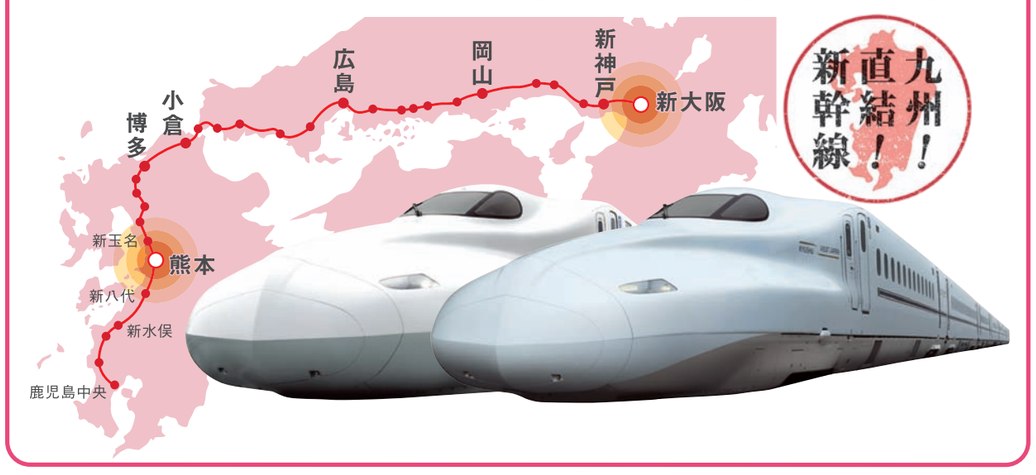
ＪＲ西日本とのタイアップキャンペーン・キックオフイベントの模様

くまもと
Kumamoto
JR西日本

くまもと
サプライズ ザンス 観光キャンペーン

平成22年10月1日～平成23年3月31日

熊本県宣伝部長のスザンヌさんが、新鮮な驚きと魅力いっぱいの故郷・熊本を紹介します。
歴史ロマンと大自然、そして多彩なグルメ!大感動が待っている熊本へ、是非!!

お楽しみがいっぱいの熊本へ。
新幹線で、ますます快適に!

平成23年3月12日 九州新幹線全線開業。